

**ISSE カンファレンス報告書**

(カンファレンス日程 1999. 06. 28~07. 05)

**1999 ISSE インド・ラクナウ カンファレンス 報告書**



1999. 07

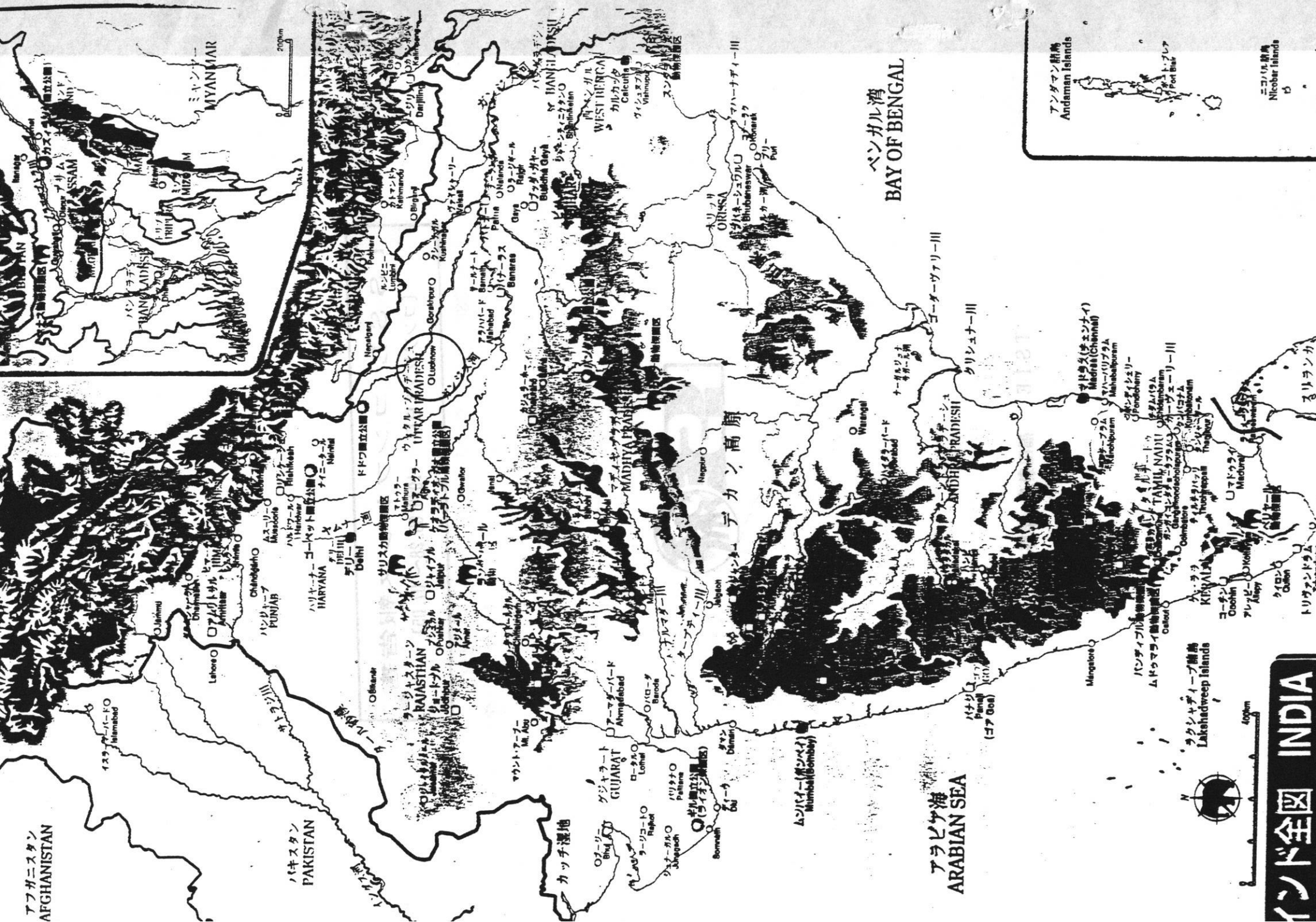
TSIE 福田泰造・宇野千代

アフガニスタン  
AFGHANISTAN

パキスタン  
PAKISTAN

アラビア海  
ARABIAN SEA

インド全図 INDIA



## 1. インド ウッタール・プラデシュ州

インド亜大陸をうるおす2大河のうち、インダス河はヒマラヤから西へ下がり、パキスタンを経てアラビア海へと流れる。もう一つのガンジス河はヒマラヤから東へ下がり、ベンガル湾へと流れる。このガンジス河の中流域の大平原に広がる大きな州が、ウッタール・プラデシュ州であって、この州はガンジスの恵みと切り離すことができない。パンジャブ州と並ぶ穀倉地帯を形成して、インドで最も多くの人口をかかえている。

ガンジス河というのは英語名称であって、正しくはガンガーという。インド人にとってガンガーは水不足のインドにあって神聖視され、信仰の対象にさえされている。インドの創世神話にも登場し、天上の河が地上に下がってガンガーとなったという。これを象徴するのが、聖なるガンガーのほとりのバナーラスの町であり、三島由紀夫の小説「豊穡の海」に描かれたベナレスに他ならない。ヒンドゥー教徒は、死ぬまでに一度はバナーラスを訪れ、聖なる河で沐浴をし、聖なる水を飲みたいと願うのである。バナーラスの上流でガンガーは2本に分かれ、南側の支流ヤムナー河は古都アグラを貫きデリーへと遡る。この2本の聖河は神格化されて女神の姿に描かれる。ヒンドゥー寺院の入口等の左右にはこれら2体の神像が優美に彫刻されている。

この州には多くのヒンドゥー聖地があるが、12世紀頃からイスラムの支配下になり、ヒンドゥーとムスリムとが対立抗争することが多かった。バナーラスの北方にあるアヨーディアにおける宗教紛争は、そのしこりが今も残っている。

インド亜大陸のほとんどを制したムガル帝国はその首都をアグラとデリーに置いた。第3代のアクバル帝は諸宗教の融和を図り、寛容の政治を行うとともに、自ら“ディーネ・イラーヒー”という総合的な宗教を創出したりもした。建築においても彼は、イスラムとヒンドゥーの美学の総合を意図しヒンドゥー的な柱・梁構造に基づいた独特のイスラム建築を創り上げた。もしかしたら、アグラ郊外のシカンドラにある彼の廟と、新たに造営した宮廷都市ファテプル・シークリーは、純ペルシャ風のタージマハル廟よりも興味をそそられる。

## 2. ラクナウ

ウッタール・プラデシュ州の州都であるラクナウは1775年にナワーブ（イスラム系の太守）のアーサーフ・アッダウラが、アワド藩王国の都を移してから発展した。北インドの宮廷文化の中心として栄えたが、建築遺産はいずれも近世のものである。1856年に英領に編入され、反英闘争の激戦地ともなったイスラムには多数派のスナ派と少数派のシーア派の2つがあるが特記すべきは、ラクナウがインドのシーア派の中心地であることで、そのことが建築文化にも反映している。

■ 人口 1億4800万人 ■ 主要言語 ヒンドゥー語

■ I S S Eコンフレンス日程〔時差：日本より3時間30分遅れ〕

月日・曜日	時刻	内 容	
1999 6月28日(月)	10:20	<input type="checkbox"/> SQ 981便にて名古屋空港発(シンガポール経由) シンガポール着 15:45 シンガポール発 18:45 SQ 408便	
	21:55	<input type="checkbox"/> 25分遅れでデリー着(税関のチェックは思いの外厳しい) デリーの天気は曇	
	22:20	<input type="checkbox"/> デリー空港で両替(100USドル→4,260円)	
	22:35	<input type="checkbox"/> アロック氏(インド滞在中の通訳)と空港出口で会う(常滑市の小旗と宇野さん作成のネームプレート掲げて目印とする)。アロック氏は奥さん同伴	
	22:50	<input type="checkbox"/> アロック氏の車(オペル アストラ)にてホテルへ	
	23:30	<input type="checkbox"/> Qutab Hotel 着	
	23:45	<input type="checkbox"/> 福田の部屋にてアロック氏に¥80,000を払い、明日の打合せ(8時10分にロビーで待ち合わせ)をする	
	23:55	<input type="checkbox"/> 宇野さんとインドについて感想を語る Very Interesting	
	00:15	<input type="checkbox"/> 水しか出ない風呂に入り汗を流す	
	00:35	<input type="checkbox"/> 就床 ※ 匂いと空気と暑さはどんなガイドブックでも表現出来ない。とにかくインドに行ってみなければ分からない。	
	6月29日	6:30	<input type="checkbox"/> 起床
		7:00	<input type="checkbox"/> 朝食 Qutab Hotel 1階レストランにて朝食(イングリッシュスタイル・ジュース, ス克蘭ブルエッグ, トースト, コーヒー)
7:50		<input type="checkbox"/> チェックアウト(150USドル 二人分) ※ Qutab Hotel は政府が経営をしているホテルとアロック氏に聞いたが日本で言う流行っていない地方都市のビジネスホテル程度)	
7:55		<input type="checkbox"/> 宇野さんとホテル前で記念写真	
8:05		<input type="checkbox"/> アロック氏とロビーにて会う	
8:10		<input type="checkbox"/> デリー国内線空港へ向かう	
8:50		<input type="checkbox"/> デリー国内線空港着(例によってポーターらしき男たちが殺到, 全て拒否)	
10:20		<input type="checkbox"/> Jet Airways N09 W741便にてラクナウに出発	
11:25		<input type="checkbox"/> ラクナウ着 啞然(日本で言う地方のJR無人駅のイメージ) ガンディ, サラ, プレマ等多くの先生(CMS)の歓迎を受ける。多くのバラの首飾りの為シャツが赤く染まる。 ※ 怪しい写真家に数多くの写真を取られる(VTRも)	
11:35		<input type="checkbox"/> スズキのライトバンにてシティ・モンテソリ・スクール(以降CMS)へ出発 ※ 道中の景色は妙に懐かしい。私が小学生(低学年)頃の日本の農村風景	
11:55		<input type="checkbox"/> CMSに到着。校長室にてしばし休憩	
12:05		<input type="checkbox"/> 前日から来ていたグレン(グラハム小)先生と再会	
12:20		<input type="checkbox"/> コンフレンス参加の登録手続き(400USドル支払う二人分)	
12:50		<input type="checkbox"/> CMS食堂にて昼食 インドに来て最初に味わうインド料理(味はまずまず。マンゴーは絶品)	

月日・曜日	時刻	内 容
6月29日(火) の続き	13:20	<input type="checkbox"/> CMS 宿舎棟に入る ※ いつの間にかラングウォーリン(オーストラリア) 小のレス・トーマスが部屋に来て部屋の使い勝手を親切に説明してくれる。(便所の位置、鍵の掛け方まで) いやな予感。 16:00 まで休息
	16:00	<input type="checkbox"/> CMS の見学
	16:20	<input type="checkbox"/> タージマハルホテルまで散歩 途中、インド砂岩を透かし彫りした工事中の住宅があり、アロック氏が職人さんに交渉して工事現場見学となる(これが後々レス・トーマス曰く Interesting Work となる)
	16:40	<input type="checkbox"/> タージマハルホテル到着 Interesting Work のお蔭でホテルの冷房と冷えたビールが(宇野さんはフレッシュマンゴージュース) 我々を桃源郷に誘う。
	19:30	<input type="checkbox"/> Interesting Work から CMS へ帰る
	20:30	<input type="checkbox"/> CMS 講堂にてディナー サラ先生・プレマ先生と日本での思い出を語る MR. Fujii always say "Are you single" とプレマ先生に伝言。
	22:15	<input type="checkbox"/> 部屋にもどる
	22:20	<input type="checkbox"/> ボードミーティングの準備
23:30	<input type="checkbox"/> 就床	
6月30日(水) 曇のち晴	6:00	<input type="checkbox"/> 起床
	7:00	<input type="checkbox"/> CMS 食堂にて朝食
	8:20	<input type="checkbox"/> CMS 正門前に集合 音楽隊による歓迎をうける。再び多くのバラの首飾りによりシャツが染まる。 歓迎式典会場の講堂まで先生方が整列
	8:30	<input type="checkbox"/> 歓迎式典開会 ラクナウ市長の挨拶に続き CMS のガンディ氏の70分におよぶ挨拶(大部分は学校の PR とアロック氏が通訳) ショウによる宗教の紹介 ISSE コンフレンス参加各国のショウによる紹介と各国代表のスピーチ ※ ガンディさんの長いスピーチの為、出席者の大多数が疲れを覚える。
	13:30	<input type="checkbox"/> 歓迎式典終了 日本の場合、歓迎式典は30分アトラクション60分とアロック氏に説明
	13:45	<input type="checkbox"/> CMS 食堂にて昼食 17:30 まで休憩
	17:40	<input type="checkbox"/> Meeting of delegates to chalk-out detailed programme of the ISSE Conf. グレン氏が進行係 最初にグレン氏の挨拶 【オーストラリア:レス・トーマスの意見】 1. 新しい学校同士が交流する場合の基準はありますか。 2. 会議の議題は数カ月前に各国に出してもらい

月日・曜日	時刻	内 容
6月30日(水) の続き		<p>たい。それにより、前もって検討が出来ます</p> <p>3. ISSEのスポンサーシップについて。 オーストラリアは他の国から遠く、国も広いので特別の費用が必要となり、大企業の協力が必要となります。(多分、フィランソロピーの事を言っているのだと思われる。)</p> <p>4. ISSEの拡大について 拡大する必要があるが、その時の費用は誰が負担するのか。</p> <p>[インド：マラ・スカラマニ、スレカ・アグニホトリの問題提起]</p> <p>1. ISSEを拡大して数を増やしてほしい。その場合費用の問題がある。</p> <p>2. 誰かが担当してインターネットのネットワークを作って欲しい。</p> <p>3. ISSEの新プログラムは今までのISSEのプログラムの中で一番効果的である。</p> <p>[日本：福田泰造、宇野千代の問題提起]</p> <p>1. 通訳について(非英語圏の悩み) コンフレンスに出席した場合、必ず言葉の問題がつきまとう。 通訳の手配の負担(現地で探す)が大きい。 開催地のISSE担当事務局で紹介を希望。</p> <p>2. 派遣児童の選び方 多人数の中からの選出の方法 派遣児童として適当かどうかの基準をどこにおくか。</p> <p>3. 派遣の時期について 日本の場合は、学校の長期休暇(夏休み)に実施。但し、夏休みはバケーションシーズンの為、航空運賃が高い。 春休みの場合は、年度変わりと重なり問題が多い。(先生の転勤・児童の進級) 受入れ・派遣を2年間を通して実施する小学校が多いが、春休みに受入れを実施すると派遣事業時では中学生になる。</p> <p>4. 派遣団のホームシックについて ホームシックになった場合、児童が自分の家に電話したりFAXしたりするのをどの程度規制するか。又、そのような場合どのようにして解決したか体験を聞かせて欲しい。</p> <p>5. 受入れ・派遣を2年間で実施することについて。 日本の学校教育のシステムや受入れ実行委員会が1年で交代する(対象児童の親がボランティアとなり委員会を構成)する理由がある但し、1年で受入れ・派遣を行う学校もある</p> <p>6. 教育制度の違いから発生する問題点について ISSE事務局や加盟校と密に連絡をとり日本の実情(日本は全て公立の小学校が現在実施)を理解してもらう。</p> <p>[メキシコ：ジュリア・T・デ・サラザールの問題提起]</p>

月日・曜日	時刻	内 容
6月30日(水) の続き		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アメリカのISSEの事務所にもっと力をつけて貰いたい。何故なら、全てのISSEのまとめをしているから。</li> <li>2. 派遣児童の旅費の予約をしてから土壇場でのキャンセルが困る。無駄である。</li> <li>3. アジア各国との国際交流には経済的な問題あり困難であり、現状は南アメリカと行っている。</li> <li>4. コンフレンスの議題は前もって知らせて欲しい。着いてからこうして議題を作るのは理解出来ない。</li> <li>5. 各国の夏休みと春休みを知らせて下さい。</li> </ol>
		〔アメリカ：グレンの問題提起〕
		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ISSEの拡大が必要だが、責任のもてる人に依って拡大して貰いたい。</li> <li>2. Eメールの交換も国によっては費用がかかる特に、日本とインドは国際電話の回線に費用がかかる。</li> </ol>
		〔その他〕
		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 明日は、各国の自己紹介をお願いします。</li> <li>2. アルゼンチンはISSEに1校は紹介済みですが、あと2校参加するそうです。</li> </ol>
		※ この後、日本の帰国時間の変更（インドの国内線の時間が不正確な為、アロック氏が朝の便でデリーまで行くことを希望）の為、コンフレンスのスケジュール調整で大混乱。我々は、余り混乱するようだったら変更なしでもよいと思ったがアロック氏が譲らず。結局、コンフレンスのスケジュール変更を行い明日は日本の問題提起を中心に討議する事が決定。さすが、アロック氏は弁護士。
	20:30	<input type="checkbox"/> タージマハルホテルでデバキ・ディベック校長先生主催のディナーの為、インド国産車で移動。この車は年代物のクラシックカーと言ったらレス・トーマス曰くThis is sickcar.
	20:40	<input type="checkbox"/> レス・トーマスの提案で食前にビールでチェアーズ
	20:55	<input type="checkbox"/> 例によってCMSのプレゼンテーション
	21:20	<input type="checkbox"/> ディナー（インド風イタリアン）かなり美味しい。
		※ このディナーの主催者 Mrs. D. Vivekは常滑東小へ来た引率者か。
		<input type="checkbox"/> 宇野さんディナーの席で折り紙披露。大好評。
		※ 帰りの便（Domestic ラクナウ→デリー）を午前中に予約。支払いはルピーと確認（日本ではUSドルで支払いと確認）
23:10	<input type="checkbox"/> タージマハルホテル前で結婚式のパレードを見学。CMS宿舎へ向かう。	
23:20	<input type="checkbox"/> CMS宿舎着	
23:25	<input type="checkbox"/> 明日の日本の問題提起の討議について検討	
24:30	<input type="checkbox"/> 就床	
7月1日(木) 晴	6:30	<input type="checkbox"/> 起床 少し腹痛を感じる。宇野さんはどうか。
	7:00	<input type="checkbox"/> CMS食堂にて朝食。腹痛の為、少し控え目。 ※ 朝食後アメリカの委員3人（昨日の問題提起コンフレンスに欠席）に我々のお土産が手に渡ったか確認

月日・曜日	時刻	内 容
7月1日(木) の続き	8:40	<input type="checkbox"/> まだ渡っていないのでガンジーさんに確認。 <input type="checkbox"/> 本日より学校開始(夏休みは昨日まで) 朝礼は日本も同じだか、とにかく時間が長い。
	9:15	<input type="checkbox"/> コンフレンス開始(進行:グレン・ルイス氏) 1. General assembly (全体会議) ・各国の報告と自己紹介 ・I S S Eの5スタースクールについて ・日本の問題(昨日の問題提起について明朝審議することを確認) 2. ジャパンレポートについて ・I S S Eに提出したジャパンレポートを福田が説明 ・ジャパンレポートについて以下の質問が各国からある。グレン氏が7月上旬に来日するのでその時に日本の各当該小学校から返事をする。 〔大野小のレポート〕 ……礼儀や優しさを欠いた手紙には不快を感じていました。この部分について具体的に説明を求められました。 〔三和小のレポート〕 ……最後の節について具体的な説明を求められました。 〔鬼北小のセルビ小キャンセルの問題〕 ……具体的に説明を求められました。 以上の返事をグレン氏にする。
	13:30	<input type="checkbox"/> 3. 各国代表が自己紹介と自国の活動報告を行う ラクナウ観光(今朝アロック氏が我々の帰りが早くなったのでショッピングを減らしてラクナウ観光を本日午後にしてくれと提案。インド代表から暑いので無理と反論。我々だけで行くとアロック氏。インド代表はそれなら我々も参加と返事) 1. Great Imambara Complex (大イマームバーラ複合体)の観光 イマームバーラとは、シーア派のイマーム・フサインが680年にイラクのカルバーラで殉教したことを記念して行われる、ムハッラムの祭事に用いられるものでラクナウの町には多くある内部の大空間にはヨーロッパの影響が濃い。モスクはムガール様式でデリーのジャーミの小型版。階段井戸(バーオリ)はこの地方に珍しい 2. ラ・マルチニエール学校 フランスの陸軍少将クロード・マルタン(1735-1800)が、退役後に東の郊外に建てた広大な住居。当初はコンスタンシアと呼ばれたが、後に男子学校となった。ヨーロッパの宮殿とシカンドラのアクバル廟、それにマドゥライのティルマライ・ナーヤカ宮殿をミックスしたような建物。 3. その他、戦争博物館(公園の中)を見学 ※ デリーの代表の言う通り殊の外、暑い市内観光でした。アロック氏が買ってくれたペプシコーラは地獄に仏でした。
	15:45	<input type="checkbox"/> CMS着 御苦労様でした。

ISSSEコンフレンス 報告書

月日・曜日	時刻	内 容
7月1日(木) の続き	15:45	<input type="checkbox"/> 休憩
	19:30	<input type="checkbox"/> Mrs. G. Khanna校長(常東小へのリーダー)先生主催のディナーに出発
	20:05	<input type="checkbox"/> 歓迎とプレゼンテーション。途中で雨が強く降り屋外の客席からステージ上に移動。 ディナーの席で少し前まで名古屋にホームステイしていた女の子とその両親に会う。 生野菜を多く食べる(後に大変な事になる)
	22:15	<input type="checkbox"/> CMS着 レス・トーマスにウイスキーを飲まないかと誘われる。腹に違和感を覚えるので断って部屋に戻る
	23:30	<input type="checkbox"/> 就床
7月2日(金) 晴	6:15	<input type="checkbox"/> 起床 腹具合が少し変。
	7:30	<input type="checkbox"/> 朝食 トーストとミルクコーヒーだけとする。 宇野さんも腹具合が変で、更に熱があるようです。
	8:30	<input type="checkbox"/> コンフレンス 日本の問題提起から審議を始める 1. 通訳について(非英語圏の悩み) 〔オーストラリアの意見〕 オーストラリアにはJapep という日本で生まれた組織がある。メルボルンに支所があります。 Japep: 3~4カ月 ASドル 600で日本人が英語を勉強するためのホームステイプログラム Japep で学んだ後、そのままオーストラリアで日本語教師をする人もいます。 ☆Japep において派遣期間に来てもらう方法がある。Japep を通じて日本人は沢山いるので通訳は手配出来ます。 〔メキシコの意見〕 .....メキシコはスペイン語 日本は費用がかかるので日本への派遣を希望する親子は2年前から費用の準備をします。その為、期待が大きくプログラムとして成功するかどうか分からない。 ☆通訳が必要な時は、日本大使館へ行って探してもらいます。可能性があれば、メキシコで探します。 ☆今後、日本と交流できるように可能性を追求して行くつもりです。 〔インドの意見〕 ☆日本人を雇って通訳とします。 〔アメリカの意見〕 ☆セカンドラングエッジとして教えていません。 以前、インドを受け入れたときは、シンシナティ大学から教授を招きヒンディ語を教えてもらいました。但し、インドの方々は英語が話せるので問題はなかった。昨年、日本へ行った時は日常会話の例題集を配ってそれを見て参照して貰いました。そして、ゆっくり話します。 〔日本の事情を説明〕 日本では中学校から英語を勉強します。小学校では教えないので派遣生や受入れホストにはボランティアが課外で教えます。

月日・曜日	時刻	内 容
7月2日(金) の続き		<p>日本では文法が出来ても英語が話せない人が多いです。</p> <p>〔アロックさんの提案〕 50の基本的な会話集の各国版をホームページでいつでも利用できるようにしたらどうか。 例えば、日本語、英語、ヒンディ語、スペイン語</p> <p>〔アロックさんの意見に対するアメリカの意見〕 その国に行ったら会話が出来なくても何とかして自分の意見を伝えようと努力するところに意義がある。会話集を渡してもよいが、そればかりに頼るのはどうか。それと、文字より発音の方が問題である。</p> <p>〔オーストラリアの意見〕 言葉の問題は交流前の問題。交流してしまえば消えます。飛行機に乗ってしまえば消えます。</p> <p>〔グレンさんの意見〕 日本へ行った時、アメリカ人が話す英語とは違う英語であった。 ☆基本語を渡してポイントを指すのはどうか。私のスティ先ではそうであった。</p> <p>◆結論 I S S E会議の場合は開催国で通訳を探す。 費用は当該国で払う。</p> <p>2. 派遣児童の選考(選び方)について</p> <p>〔インドの意見〕 11の学校から順番に選びます(学校の選定) 受入れ家庭と派遣家庭は同じ家庭です。これはより深い、継続した交流をする為です。 先ず、募集し次のチェックをします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学からの素行調査</li> <li>・提出書類(アンケート)により親の考えを調べます。</li> <li>・親の仕事、収入、英語力(ホストとして相応しいかどうか)を調べます。</li> <li>・費用の負担ができるかどうか調べます。</li> <li>・先生がチェックして情報が正しいかどうか調べます。</li> </ul> <p>以上のチェックを参考にして親の面接、児童の面接、家庭の検査を行います。そして、校長先生と先生で話し合って決定します。 60人位の中から8人を選ぶので選考から外れた親から反発があります。 選考後……1ヵ月前からカルチャーショウを準備します。 交流相手の国が何を期待しているかを教えます。(受入れ・派遣共)</p> <p>〔日本の場合を説明〕 学校から依頼を受けてT S I Eで選考委員会を組織して2回の面接と作文で決定するか、各学校の実行委員会で面接等を行って決めています 児童の面接は、予め家庭で質問される事を予測</p>

月日・曜日	時刻	内 容
7月2日(金) の続き		<p>して面接の練習をしてきます。従って全ての児童は優等生の返事をします。これまでは、個性的な児童の多くは選考から外れていました。今後は変わると思います。</p> <p>〔アメリカの意見〕  先ず、人相と態度を見て本当に行きたいかどうか調べることができます。次に業績、行動、協調性をチェックします。  面接(親と子共に)の内容  子……本当に行きたいかどうか調べます。  親……このプログラムに対する考え方を聞きます。  ※何年も続けていると嘘を言っているかどうか見抜けるようになります。  申込み⇒先生の推薦⇒校長先生の推薦⇒委員会がある程度までしぼり、その後面接して決定します。</p> <p>〔オーストラリアの意見〕  費用が問題となります。費用がかかるので応募者が少ないです。  どんな経験をさせたいか親に聞きます。それによって行き先を決定します。そして、受入れ・派遣共プログラムについてのガイドラインが作ってあるのでそれを読んでもらいます。その他にホストファミリーの警察のチェックもします。全ての情報が警察のコンピューターに入っています。警察の意見を聞いてホストファミリーを決定する材料とします。</p> <p>〔メキシコの意見〕  ニューメキシコは、狭い社会だから家族についての情報は調べません。費用はやはり我々も問題となります。誰が負担するのかチェックします。気持ちの良い生徒を選ぶようにしています。そして、リーダーは前に選ばれた経験のある先生を選びます。</p> <p>◆結論  以上の多くの意見を参考にして日本独自のやり方で選考する。</p> <p>3. ホームシックについて  〔メキシコの意見〕  決定前からずっと児童の性格をチェックして親にくっついている児童は派遣しません。どんな親も子供を愛していますが、親と離れて生活する為、甘やかす親は問題があります。この場合の甘やかすとは、子供の言いなりで、特別の飲物やお菓子を与えるという意味です。ホームシックの原因は親にあると思います。</p> <p>〔インドの意見〕  派遣児童が着いた時に涙が出ましたが、別れる時は更に多くの涙がでました。気分が良くなる(ホームシックがなくなる)までに時間がかかります。例えば、1週間はホームシックで2週</p>

月日・曜日	時刻	内 容
7月2日(金) の続き		<p>間目から本格的な交流が始まり慣れた時には帰国しなければなりません。3週間の派遣は適当だと考えます。</p> <p>〔メキシコの意見〕 ホームシックになった場合、ホストファミリーの親とよく話し合います。彼らが努力してくれるようにします。ホストファミリーに派遣児童がどうしても馴染まない場合はホストファミリーを換える場合もあります。ホームシックでない児童が、母親と電話で話してホームシックになった場合があります。</p> <p>〔インドの意見〕 児童を選ぶ時、両親のいる児童を選びます。片親は好ましくない。</p> <p>〔メキシコの意見〕 以前、父親は亡くなっていて母親が両親(祖父祖母)と一緒に住んでいるケースがありました。これはOKとしました。</p> <p>〔オーストラリアの意見〕 面接時にホームシックになった場合どうしますかと両親に質問します。家から決まった時間になると電話をしてくる事例がありました。児童は電話がかかって来る時間が近づくとき泣き出します。面接時に電話をしないことを確認します。ホストファミリーに問題があるとホームシックになりやすいです。問題のあるホストファミリーはその学校長に相談します。校長先生とホストファミリーの関係がフランクであると問題はありません。</p> <p>〔グレンの意見〕 派遣前に児童と先生を一緒にして関係をよくしておきます。先生を信頼して愛するようにします。そうすれば問題はありません。 例えば、児童と先生と一緒に派遣前にキャンプに行った、旅行したりして友達関係になります。特に、派遣前には先生と一緒に住みます。その後、派遣してホストファミリーと一緒に住みます。</p> <p>〔メキシコの意見〕 派遣中の健康上の問題もホームシックの原因となります。歯医者に現地で行った時、いつもの慣れた歯科医ではないので治療の仕方に無理があり帰国してからも一週間治療に通い苦しみました。</p> <p>〔グレンの意見〕 文化の相違があるのはあたり前のことです。ここはインドですとはっきり言い聞かせて下さい。理解をさせて下さい。</p> <p>〔インドの意見〕 派遣児童とホストとの親睦を深めるため、派遣先に到着したらすぐホスト全員と派遣チーム全員で旅行しました。この時は効果があったのでこれは一つの方法です。</p>

月日・曜日	時刻	内 容
7月2日(金) の続き		<p>〔インド、CMSの意見〕 ホストファミリーは派遣児童と同じ年令の子どものある家庭とします。そして、ホームシックになった場合は子供たちで解決するようにします。どうしても駄目な場合を想定して、前もって派遣児童の親に自分の子ども宛で手紙を書いてもらいます。そして、それを読ませます。これは、非常の場合のみに使います。</p> <p>〔アメリカの意見〕 私は手紙を前もって送る方法は進めません。手紙を読むと懐かしがって泣き出します。親にどんなに言っても連絡をとる場合は引率の先生に連絡をとるよう親に言います。一緒に行く先生から親の知りたい情報を入れてもらいます。自分の子供が今どうしているのか親が心配するのは当たり前ですから引率者に連絡を入れてもらいます。</p> <p>◆結論 我々の問題提起『ホームシックについて』に多くの時間を割いて話し合って載ったことに感謝します。只今の多くの意見は大変参考になりました。ホームシックは直接は児童の問題ですが親の影響も多分に有るように思えてなりません。皆さんの意見を参考にして次回からもう少し改良した派遣チームを日本は送ることが出来ると思います。貴重な意見をありがとうございました。</p> <p>4. 派遣のリーダーについて(日本が3月に派遣する場合先生が引率できないことに関して)</p> <p>〔オーストラリアの意見〕 オーストラリアは先生と親がリーダーになる場合があります。</p> <p>〔インド、CMSの意見〕 引率は先生だけで考えています。</p> <p>〔アメリカ、グレンの意見〕 二人の大人が行きます。先生以外では、退職した先生たちと一緒にいかせる場合もあります。</p> <p>〔オーストラリアの意見〕 先程の意見に付け加えます。先生は学期中ですと変わりの先生を付けなければならない為、費用がかかります。ですから、ISSEの委員会の方を行かせます。それが駄目な場合はボランティア。それも駄目なら親を行かせます。</p> <p>〔メキシコの意見〕 親は行かせません。</p> <p>〔インドの意見〕 このような事がかつてありました。派遣した時親が隠れてついて行ってホテルに泊まっていたことがありました。もちろん、ニューデリーに親子共すぐ帰りました。</p> <p>〔日本の説明〕 我々は先生と親を行かせたことがあります。英語の話せる親と一緒にいかせました。</p>

月日・曜日	時刻	内 容
7月2日(金) の続き		<p>2000年3月のグラハム小への西北小の派遣においては、年度変わりの為、先生が派遣出来ません。従って先生の経験者とボランティア又は、派遣生の親とボランティアが引率者になる可能性が高いです。</p> <p>〔アメリカ・グレンの意見〕 No problem</p> <p>〔オーストラリア・レストームスの意見〕 我々はお金がないので一人しか行かせることが出来ません…(笑い)</p> <p>〔アメリカ・グレンの意見〕 休暇に派遣がかかった場合(日本が心配している)は、自分の学校から別にホームワークを作って滞在中にさせます。</p> <p>〔メキシコの意見〕 そして、いろいろな体験も同時にさせます。</p> <p>〔インドの意見〕 学期中に行かせた場合、特別にテストは免除します。帰ってから派遣中の3週間の間学校で派遣されなかった子ども達と一緒に試験はしません。3週間学校での勉強をしなかったからです。3週間の派遣で得たものの方が子どもにとっては大きいからです。高等学校の派遣の場合は試験は行いますが、小中学校は以上の理由で試験は行いません。</p> <p>〔アメリカの意見〕 試験の代わりにダイアリーを毎日書かせます。毎日何をしたかを書かせます。</p> <p>〔CMSの意見〕 我々は5月10日から6月30日が夏休みです。その期間中に派遣します。ですから、学期中に派遣して他の子どもから勉強が遅れるといった問題はありません。 もし、学期中に派遣をせざるをえない場合は先生(引率の)に特別な授業をしてもらいます。</p> <p>〔オーストラリアの意見〕 アクティブティブック(活動日誌)に毎日の生活を記録します。</p> <p>〔メキシコの場合〕 学期中の派遣でも毎日多くのホームワークは出しません。</p> <p>〔インドの意見〕 日本へ派遣した場合は、日本の文化等の質問をホームワークとしました。</p> <p>〔日本の説明〕 日本では長期の休み(夏休み、春休み)に派遣します。問題提起で申しあげました通り教育制度や引率者の問題等でどうしても長期の休み期間に派遣せざるを得ません。</p> <p>◆結論 引率者は先生が一番です。しかし、学期中だとか日本の場合のように年度変わりの場合は、先生の経験者か、ボランティアそして親が引率する事に</p>

月日・曜日	時刻	内 容
7月2日(金) の続き		<p>なりますが、全く問題ありません。</p> <p>5. 受入れ・派遣を2年で実施することについて        [メキシコの意見]        2年間にしてもらいたいのは受けた学校を行かせたいからです。        [アメリカ・グレンの意見]        日本とのプログラムはこれまでで一番長いです        [アメリカの意見]        我々は毎年1つの国と派遣・受入れをしてきました。        [日本の説明]        日本の学校教育のシステムを理解してもらう為此の問題を掲げました。2年間で受入れ・派遣をする場合、会費を2分割して頂き、更に事業を行っていない(休んで)いる場合に待って戴いていることに対して感謝します。そして、このコンفرنスのレジュメを日本の為に変更して順番を早くして戴いたことについて感謝します。有り難うございました。</p> <p>6. 国際会議で通訳をお願いしたときの費用について        [アメリカ・グレンの質問]        日本の場合(今回、アロック氏にお願いしたことにかんして)は、T S I Eが負担していますか。        [日本]        はい。T S I Eが通訳を探すのも、費用も負担しています。        [CMSの意見]        ホストファミリーの責任にするのはどうですか        [メキシコの意見]        今、我々が話し合っているのはコンفرنスの場合です。ホストファミリーの場合ではありません。        [CMSの意見]        失礼しました。I S S Eの責任と言い換えます        [メキシコの意見]        では、I S S Eの責任と言うことでグレン、アメリカが担当して通訳の責任を持つこととしましょう。        [日本の意見]        我々が通訳の件で一番言いたいのは、前にも言いましたが、人を探すことの負担を無くしたいと言うことです。探して戴ければ、こちらで全部打ち合わせます。勿論、費用も踏まえて話をします。(同じ事を何度も言わせるので福田が少しムッとする)</p> <p>※結論は1で採決済みなのに再びとる。結果は1で報告した通りです。        『国際会議はホスト国で通訳を探すことを決定します』        以上が日本の問題提起に対する審議でした。</p>

月日・曜日	時刻	内 容
7月2日(金) の続き		<p>7. Eメールの活用について</p> <p>〔オーストラリアの意見〕 多くの人達にEメールの設備を設置することを希望します。そして、毎日見てくれるよう希望します。</p> <p>〔アメリカ・グレンの意見〕 まず、ピンクの紙にI S S E加盟校の今後の国際交流の相手校が表となっていますが信用しないで下さい。なぜなら、日本のように参加だけして休んでいる場合もあります。ですからコンタクトを充分にとって確認して下さい。その場合、Eメールで行うことを希望します。今はEメールの時代です。Eメールについてもガイドラインが必要です。なぜなら、派遣中にホストのコンピューターの前に座って連絡をとり続ける子どもがいます。それを規制する必要があります。それには費用の問題も含まれます</p> <p>〔メキシコの意見〕 そういうケースは担当の引率者にまかせています。</p> <p>〔アメリカの意見〕 それと、コンピューターのある家とない家があり、ない家の派遣児童が不満がでるのが本来の目的から外れて心配です。</p> <p>〔日本の意見〕 ホストファミリーとリーダーによく理解してもらってEメールの規制をして下さい。日本でもEメールを設置した家庭が増えました。</p> <p>〔オーストラリア、レス・トーマスの意見〕 日本で増えるのは当たり前です。我々のコンピューターは全て日本製です。</p> <p>〔インドの意見〕 派遣先に無事到着した連絡を入れるのは当たり前です。我々は全部で2回の連絡を入れます。日本の福田の提案について我々は次のように考えます。派遣の場合Eメールで先生に限って必要な連絡を行います。それとインドでは可能ですが受話器を操作することによって国際電話がかけられなくなります。</p> <p>〔アメリカの意見〕 3週間の派遣だからアクシデントが起きない限りコミュニケーションは必要ありません。</p> <p>〔オーストラリアの意見〕 行くコミュニケーションと来るコミュニケーションの最高の限度を決めればよい。それも直接ではなくて担当の先生を通して送ればよい。</p> <p>〔メキシコの意見〕 FAXの長さも制限する。半ページとか。</p> <p>〔日本の意見〕 それでは最高の制限だけI S S Eで決定してあとは引率の先生にまかせたらどうですか。しかも、連絡は子どもではなくて引率の先生がEメールで行うことにすれば良い。</p>

月日・曜日	時刻	内 容
7月2日(金) の続き		<p>◆結論 派遣チームのEメール等を使った連絡は最高で1週間に1回とします。3週間の派遣では3回の連絡とします。そして、引率者を経由して行き各児童半ページとします。</p> <p>8. ISS Eの活動の拡大について 〔オーストラリアの意見〕 一番関心を持っていると言うことで我々から意見を述べます。 オーストラリアは遠い国です。最初の頃は他のISS Eのメンバーからは歓迎されませんでした。我々は拡大することによって力を強くすることに努力してきました。そんな中で日本には感謝します。いろいろな経験によって多くの学校の紹介をしてもらいました。マレーシアに関してはいろいろ紹介してもらいましたが、はっきりした反応はまだです。その中のスパンジャヤは来年予定しています。ダメであったらその関係は諦めます。 アメリカ・メキシコに行くのは2,500ドル、マレーシアへは1,200ドルで行けます。ですからアメリカとメキシコが相手の場合はお金持ちの家庭でないと出来ません。その為オーストラリアに近い国に可能性を見出します。アメリカから本日派遣チームが来ているはずですが、現在、多くの交流を日本と行っていますが、個性的な他の学校とも交流を希望します。多くの親はエキサイティングなプログラムを聞くと感動します。</p> <p>〔インドの意見〕 オーストラリアはなぜ隣のニュージーランドとコンタクトをとらないか。</p> <p>〔オーストラリア〕 試しましたが1回だけで続きませんでした。ISS Eの情報を多くの国に流して下さい。コンタクトを最初に行い今のように拡大してきました。メキシコともそういう形で拡大してうまくいっています。 拡大する為には、各国が自分で活動して行かなければなりません。そして、同時にある国が直面している問題について深く考え、その国を責めないで皆で考えることが必要です。</p> <p>〔メキシコの意見〕 オーストラリアからの交流には感謝していますが、国内のマーケティングにも注意を払っています。現在は景気があまりよくないのでメキシコの場合は費用のかからないラテンアメリカとの可能性を探っています。アメリカはメキシコの南の方の学校がよいと思います。 ニューメキシコのサンアントニオに私が出向いて興味を持っているか確認してきます。可能性を探ってきます。</p>

月日・曜日	時刻	内 容
7月2日(金) の続き		<p>〔メキシコの意見〕 オーストラリアは2年に渡りマレーシアに関してISSSEの費用で下見をしたりしましたがマレーシアは興味を示しませんでした。ISSSEの費用を使ったこの場合はオーストラリアの負担となりませんか。</p> <p>〔オーストラリアの意見〕 反応はその国により違います。その例を出すとオーストラリアの親は自分の子どもを日本に派遣する場合は下見をして検討しますが、日本の親もそれ以上に下見をしたり相手校と連絡を密にしたりします。</p> <p>〔日本の意見〕 下見の費用はTSIEが約半分、残りの半分は下見に行く委員が自分で負担します。日本の場合はISSSEが負担していません。</p> <p>〔オーストラリアの意見〕 最初日本がISSSEに加盟した時、オーストラリアと3年間交流を続けました。長く続けると特別な関係を持ってきました。そして、拡大されればされる程、交流先の選択も多くなり特定の学校との特別な関係はなくなります。日本とはその近隣諸国も踏まえて交流を続けるでしょう。</p> <p>〔日本の意見〕 日本は東南アジアに広める努力をしています。その中でもマレーシアとは交流が始まったばかりです。今年の9月には日本にマレーシアから派遣チームが遣ってきます。但し、マレーシアはISSSEにはまだ参加していません。我々は参加するよう努力しています。又、東南アジアの拠点として日本は韓国や中国も今後の交流相手として考えています。特に、中国には特別な興味をもっています。</p> <p>〔オーストラリアの意見〕 我々は既に韓国には打診しました。返事はまだですが、日本と一緒に韓国、中国を進めて行きたいと思えます。</p> <p>〔日本の意見〕 TSIEには、皆さんご存じのYuko Shibayamaがいます。彼女と連絡をとりつつ協力して拡大を進めて行きたいと考えています。 拡大について一言申し上げます。我々の街はグレンさんはよく御存知ですが焼き物の街です。そして、焼き物ホームスティを毎年行っています。世界各地から焼き物に興味をもった勉強の意欲のある人達が常滑に集ってきます。彼らは暫く焼き物の勉強の為常滑に残る人と帰国して広く常滑焼きを紹介したり自分の国の焼き物に常滑焼きを採り入れて活躍している人達がいいます。このような人達にお願いして世界各地にISSSEを広めて行く方法もあると考えます。事実、マレーシアとはそれがきっかけで交流を</p>

月日・曜日	時刻	内 容
7月2日(金) の続き		<p>始めました。皆さんの国でもこのようなインターナショナルな企画や集い等があればそれを利用する方法があると思います。</p> <p>〔アメリカ・グレンの意見〕 ガンジーさんはCISVのメンバーだからその名簿を活用してISSEのメンバーを増やすことが出来ませんか。</p> <p>〔CMS・ガンジー〕 それをする為にISSEの紹介状を作って下さい。CISVのメンバーのEメールナンバーをグレンさんに渡します。 この後、例によってガンジーさんはCISVを20分にわたって紹介するスピーチを行いました他のISSEメンバーはうんざりの表情……。</p> <p>◆結論 国際交流の他の団体や日本の事例のようなホームステイによる芸術、技術の勉強する組織等を活用して広めて行く方法を勉強しましょう。</p> <p>9. 次はISSEの活動の拡大の費用はだれがもつか 〔アメリカ・グレンの意見〕 私が国の代表になってからファンド（基金）についての請求書がきました。</p> <p>〔メキシコの意見〕 我々はファンドについては知りません。 コンタクトする為、下見の旅の場合費用がかかります。そして、ISSEに加盟して交流を始めるかどうかの保証はありません。</p> <p>〔アメリカ・グレンの意見〕 下見に行くに費用がかかるので拡大しようとする場合はEメール等を使って確認してから具体的にしていけば費用の負担が少なくなります。</p> <p>〔日本の意見〕 国際交流の各国のISSE以外の団体を利用すれば費用負担は少なくなります。</p> <p>◆結論 皆様方の意見を参考に費用負担の少ない方法を探して行くことを検討しましょう。</p> <p>10. 2001年の次回コンフレンスまでになにをしたらよいか話し合しましょう。</p> <p>〔メキシコの意見〕 ISSEの中央事務所からなにをしたらよいかを配って下さい。又、再び経済危機が来るとメキシコでは事業が出来なくなります。但し、今は安定しています。我々は日本との交流にも興味をもっています。但し、前にも申し上げましたが、費用のもんだいで2年計画でマネーメイクをしなければなりません。</p> <p>〔オーストラリア、レス・トーマスの意見〕 新しい国と交流をして行きたいと考えていますマレーシアのスパンジャヤセクション9と交流します。</p>

月日・曜日	時刻	内 容
7月2日(金) の続き		<p>〔日本の意見〕 スパンジャヤセクション9といいましたか。</p> <p>〔オーストラリア、レス・トーマスの意見〕 はいそうです。</p> <p>〔日本の意見〕 その学校はTSIEで決定しています。柴山裕子さんに確認をとってみます。</p> <p>〔メキシコの意見〕 ファンド(基金)についてもう少し意見を言います。ISSEからファンドを買った場合は相当の責任が出てきます。責任感をもって下見の派遣をする事が必要です。</p> <p>〔オーストラリア、レス・トーマスの意見〕 ファンドは国の事務所からでないといけません。ファンドについては何故それが出たか2週間以内に何らかの反応をしなければなりません。反応しない場合は後から反対は出来ません。</p> <p>〔CMS・ガンジーの意見〕 ファンドを要求した場合、どんなガイドラインとしますか。</p> <p>〔アメリカ・グレンの意見〕 先ず、申込み用紙に書きます。提案の中で希望している国が関心があるかどうかを書きます。関心のあることを証明書として出します。そして、今まで送った情報を与えます。その情報を得る為に下見旅行が必要かどうか検討します。</p> <p>〔メキシコの意見〕 国を代表する人によってファンドの提案をするようにして下さい。</p> <p>〔アメリカ・グレンの意見〕 ファンドの流れを言います。先ず申込み、そして出納係に行きます。出納係が承諾したら書記に回ります。その場合、もちろん出納係が書記に提出する前に目的の学校に関心があるか確認します。</p> <p>〔アメリカ・グレンの意見〕 次に関連したことですが、この中でスポンサーシップを使っている国はありますか。</p> <p>〔日本の意見〕 常滑市からもらっています。</p> <p>〔オーストラリアの意見〕 企業からもらっています。</p> <p>〔インドの意見〕 日本の場合は市の協力を得ていると言う事で別としますが、オーストラリアの企業の協力について資料を送ってほしいと思います。</p> <p>〔オーストラリア、レス・トーマスの意見〕 もう1時30分です。グレン、真面目にまだ続けるつもりですか。腹がへって話がうまく出来な いです..... インドへ企業の協力の資料を早速送ります。Eメールでいいですか。インドへのEメールは費用がかさむのでISSE負担として下さい.....</p>

月日・曜日	時刻	内 容
7月2日(金) の続き		<p>[アメリカ・グレンの意見] 大変長い時間有り難うございました。本日のコンフレンスはこれで終了したいとおもいます。</p> <p>[オーストラリアの意見] 大変有意義な会議でした。日本とメキシコがお互いに興味を示していることが確認出来たことだけでも成果があったと思います。</p> <p>[インド・CMSの意見] 日本の代表は、これでコンフレンスは最後です速くからコンフレンスに出席していただきましてありがとうございました。</p> <p>[日本の意見] 私たちの為にスケジュールを変更して頂き誠に有り難うございました。しかも、我々の問題提起について多くの時間をさいて話し合って戴いたことに関して厚くお礼申し上げます。私はこの4月からTSIEの代表となりました。このコンフレンスでの体験がISSEに対する認識を大きく変えてくれました。来年から皆様方の国に派遣する日本のチームはこれまでとは違った個性のあるチームが派遣できると思います。又、受入れ事業もより一層充実した形で皆様方のチームを受け入れることができると思います。我々は明朝早くに帰国します。このコンフレンスが最後まで大成功をおさめ、皆様方のますますのご清栄とご健勝を祈念して(ここの部分アロックさんが通訳するのに何度も聞き返す)感謝の挨拶とします。有り難うございました。さようなら…………。</p> <p>13:30 <input type="checkbox"/> コンフレンス終了</p> <p>13:40 <input type="checkbox"/> 昼食 食欲がないので福田はパス。そして午前中のコンフレンスで熱が出て部屋に帰った宇野さんを見舞う。解熱剤を飲んで少し良くなったと思われる。</p> <p>14:00 <input type="checkbox"/> アロックさんが我々の為にお粥を手配してくれたので宇野さんの部屋にて少し食べる(ごはんと牛乳と卵が入っている不思議なお粥。大変まずい)</p> <p>14:20 <input type="checkbox"/> 部屋にもどり午後のショッピングは欠席して静養。</p> <p>14:45 <input type="checkbox"/> あの怪しげな写真屋が注文した写真をもって部屋に来る。宇野さんの分も合わせて拡大した写真を購入する。購入する毎に値段がアップしているようだ。</p> <p>15:00 <input type="checkbox"/> 我々の担当の世話係が部屋に来てお粥はどうだったかと聞く。Very deliciousと返事する。チップとして100ルピーをわたしたらおかわりを持って来ると言うので慌てて断り冷えたミネラルウォーターを頼む</p> <p>15:35 <input type="checkbox"/> アロックさんが様子を伺いに来る。もうよくなったことを伝える。</p> <p>15:50 <input type="checkbox"/> 怪しげな写真家が別の写真を売りに来る。だんだん腹立たしくなって来る。全部購入する。</p> <p>16:00 <input type="checkbox"/> グレンとレスにショッピングに誘われるが宇野さんと私は具合が悪いので静養すると伝える。</p> <p>16:20 <input type="checkbox"/> 担当の世話係が様子伺いにくる。インドの皆さんは迷惑するくらい親切。眠りたいのでそっとしてほし</p>

月日・曜日	時刻	内 容
7月2日(金) の続き	19:30	<input type="checkbox"/> い。 アロックさんが夕食はどうしますかと聞きに来る。部屋の外に出たら平野先生や柴山さんへのお土産をCMSの先生方からあずかる。
	20:00	<input type="checkbox"/> 気分は大分良くなる。本日午前中のコンフレンスのまとめをする。アロックさんが明日の出発時間を確認に来る
	21:15	<input type="checkbox"/> 荷作りして就床
7月3日(土) 晴	5:30	<input type="checkbox"/> 起床
	6:20	<input type="checkbox"/> 宇野さんが部屋に来る。お互い腹具合はよくなる。
	6:30	<input type="checkbox"/> グレン・レスの見送りを受けてラクナウのドメステック空港へ向かう。
	7:50	<input type="checkbox"/> 怪しい写真屋が再び登場。コンフレンスのVTRを売りに来る。宇野さんと私は2本購入(これが日本で変換しないと写らない代物。後日分かったことだが変換に¥12,000かかる。グレンさんも自分の分とコーンの分と2本購入したが写らなかったそうで、日本で変換したものをグレンさんに送る予定)
	8:50	<input type="checkbox"/> 約20分遅れで出発 Indian Airlines CD7412便 今まで乗ったジェット機では一番使いこなししたジェット機。理解できないインド音楽と使いこなししたインテリアがInteresting。只、食事には感心する。ベジタリアン用とシーク教徒用(マトンを使ったカレー)そして我々のインターナショナル(チキンを使ったもの)なもの。食後のキャンディにもカレーが入っていたと感じたのは私だけか。
	9:45	<input type="checkbox"/> 無事デリー着(拍手をするのは失礼か)
	10:30	<input type="checkbox"/> アロックさんの家に行き暫し休憩。アロックさんの奥さんは仕事でいなかったが、我々の為に朝食を用意して下さった。アロックさんの家で飲んだ冷えた麦茶は最高。
	11:10	<input type="checkbox"/> アロックさんの車でニューデリー観光に出発
	11:30	<input type="checkbox"/> クトゥブ・ミナール(デリー)の見学 ミナールはミナレットのこと(イスラム寺院の尖塔の意)だが、ここではアイバクによる戦勝記念塔の意味が強い。インドで最も背の高い塔で高さ72.5m。円形と三角形断面がリブ状に交互に繰り返すシャフトは力強い。2層目からは娘婿(イレトゥミシュ)による増築。この塔のモデルはアフガニスタンのジャームのミナレット。
	11:50	<input type="checkbox"/> ロータス・templ (ニューデリー)の見学 ロータス・templは俗称(本当はバハイ塔寺院)イランの建築家ファブリブルズ・サーバはインドで最も愛される花、蓮をモチーフとしてデザインしリブつきのシェル構造による花びらを屋根とする。建築的にはデンマークの建築家ヨーン・ウッツンのシドニーのオペラハウスを真似たもの。シドニーのオペラハウスには及ばない。

※ロータス・templへ行く途中でISSE加盟校であるBluebells 小学校の前を通過。アロックさんが車で案内。

月日・曜日	時刻	内 容
7月3日(土) の続き		ル犬) アロックさんのお父さんはサンスクリット語の日本語の教科書を作った人。教育者であり、インド哲学者でもある。多くの来日経験をもつ親日家。もちろん日本語を話す。
	18:15	<input type="checkbox"/> アロックさんの奥さんの手料理のディナーを戴く。大変美味しい。但し、見た目に美味しそうなナスの料理の表現が出来ない。日本では味わえない味(まずい)その他は、美味しく戴きました。冷えたビールがあれば最高。
	19:00	<input type="checkbox"/> 食後の歓談。宇野さんはアロックさんの奥さんと折り紙談義。それにしてもアロックさんは親日家。鳴海製陶とノリタケチャイテの製品が食堂の飾り棚一杯。日本の家でもこんなに揃っている家はないと思う。チークの無垢材を使った食器棚はアロックさんがデザインした自慢の棚。ディテールに難があるが遠目には素晴らしい。
	20:50	<input type="checkbox"/> アロックさんの奥さんに再会を約束していよいよデリー空港へ向かう。(アロックさんのお父さんも同行)
	21:30	<input type="checkbox"/> アロックさんとの別れ。この一週間が一年間であったように妙に懐かしく頭の中をよぎる。これほどのカルチャーショックを受けたのは、バチカンのシスターナ礼拝堂でミケランジェロの最後の審判を見て依頼。 我々が中に入って見えなくなるまでアロックさんはてをふっていました。
	21:45	<input type="checkbox"/> セキュリティのチェックを受けてチェックインする 思いのほかセキュリティチェックが厳しい。電池が入っているものは反応するのでスーツケースオープンとなる。詳しくは宇野さんに聞いて下さい。 チェックインの順番待ちの時、我々の前のグループの手荷物が大きいので機内持ち込み不可となりかなりもめる。おかげで20分ぐらいチェックインが遅れる
	22:15	<input type="checkbox"/> 我々の搭乗デートである9番ゲートは工事中で閉鎖隣簡易のゲート前で待つ 時間を過ぎても搭乗出来ない。他の乗客は平然としている。私と宇野さんだけウロウロ。
	23:45	<input type="checkbox"/> 30分遅れで出発 SQ407便 宇野さんと一緒にチェックインしたのに席が別で隣の隣にはシーク教の変なおやじが座りいちいち世話やいてくれる。私だってシートベルトのセットの仕方くらいは知っている。頭にきたのでアルコールを飲んでベロベロになる。(ジン・トニック2杯とビール・ワイン) それ以後、私を軽蔑したようだ。
7月4日(日) 曇	07:35	<input type="checkbox"/> シンガポール着
	08:20	<input type="checkbox"/> トランジットで18時間ある。とにかく空港ホテルで休息しようと意見が一致。6時間で予約して睡眠この旅行で初めて湯の風呂にはいる。天国……………。 6時間の休息後ラッフルズ・ホテルからオーチャード通りを散策とショッピング。デリーとシンガポール、両極端の町並みの比較がInteresting

月日・曜日	時刻	内 容
7月3日(土) の続き	13:15	<input type="checkbox"/> コンノート・プレイスへショッピングに行く コンノート・プレイスはニュー・デリーのへそにあたる部分。ここを中心に放射状に道路が広がる。ハーフ・ミラーとスペース・フレームを使ったCh・コレア設計の巨大なオフィスビルは2棟に別れスペース・フレームのパーゴラが門をイメージし背後のバスターミナルからの人々を歩行者デッキに迎える。国営のショッピングセンターで買物。宇野さんはパンジャビードレスを購入。私はびゃくだん(白壇:インド産の香木)のペーパーナイフを皆さんのお土産に購入(かなり安価)
	14:50	<input type="checkbox"/> コンノート・プレイス近くの露店販売の冷えたコーラ(インドではペプシが人気)で生気を取り戻す。実は国営のショッピングセンターのエアコンが故障していて店内はサウナ状態でした。 ※ラクナウでは停電が頻繁にありエアコンが止まることしばしばありました。
	15:30	<input type="checkbox"/> ニューデリーの都市計画(インド門と大統領官邸)の見学。 英領インド帝国の首都はカルカッタであったが、デリーに移すことになり、英国の建築家エドウィン・ラチェンズが招聘された。1911年ニューデリーの計画を開始し、建設が完了したのは1931年であった。計画はインド門と大統領官邸を結ぶ『王の道(ラージ・パトゥ)』とそれに直交する『民の道(ジャン・パトゥ)』を基本軸とし六角形の道路パターンがからむ。オールド・デリーとの接点にはコンノートプレイスを配し商業中心となった。ヨーロッパ建築とムガル建築が融合した密度の高いものである。大統領官邸の手前に対照形に向かい合う2棟の建物は政庁舎である。建築家ハーバート・ベイカーは友人エドウィン・ラチェンズに呼び寄せられ新都市の計画に協力するとともにこの建物の設計も手がけたこの建物のデザインのメタファーはグリニッジにある王立海軍学校(クリストファー・レン設計)にあり、彼は西洋的な古典的調和を求めていた。国会議事堂も彼の手による。
	16:10	<input type="checkbox"/> THE MOTHERS INTERNATIONAL SCHOOLに到着 小学校から大学まである素晴らしい環境の中にある学園。アロックさんの奥さんの兄さんが大学で体育の先生をしているのでアロックさんの紹介で訪れる兄さんが小学校の校長先生に会う段取りをしてくれる。丁度校長室に在室しているとのこと。少し緊張校長室にて校長先生にI S S Eの組織と国際交流事業の概略を説明する。大変興味を示して戴き、I S S Eの案内をアロックさんを通じて送ることを約束する。校長先生は日本との小学生の交流に大変興味を示し、交流の意思がある様子でした。校長先生が自ら作って下さった冷えたレモンジュースが絶品でした。一気に飲み干す(ラクナウでの腹具合が悪くなったことはすっかり忘れて一気に飲む)
	16:20	<input type="checkbox"/> 校長室にて校長先生にI S S Eの組織と国際交流事業の概略を説明する。大変興味を示して戴き、I S S Eの案内をアロックさんを通じて送ることを約束する。校長先生は日本との小学生の交流に大変興味を示し、交流の意思がある様子でした。校長先生が自ら作って下さった冷えたレモンジュースが絶品でした。一気に飲み干す(ラクナウでの腹具合が悪くなったことはすっかり忘れて一気に飲む)
	17:20	<input type="checkbox"/> アロックさんの家に帰る。アロックさんのお父さんと2匹の犬が大歓迎(スピッツと太りすぎのビーグ

月日・曜日	時刻	内 容
7月5日(月)	01:15	<input type="checkbox"/> シンガポール発 SQ982便
	08:35	<input type="checkbox"/> 疲れがどっと出て夢心地で名古屋へ
	11:00	<input type="checkbox"/> 名古屋着(定刻) <input type="checkbox"/> 常滑着 お疲れさまでした。

視察を終えて

インドでの体験は全てが興味深く、右も左も不案内な我々を助けてくれたアロックさんに先ず感謝します。

どんな国でも、その国の空気があります。国を訪れた者でないと表現出来ない空気があります。どんなガイドブックにも紹介されないものがその国の空気だと思います。インドは素晴らしい空気をもった国でした。時としてそれは、日本の空気に慣れた人達には馴染めない空気かもしれません。この報告書から少しでもインドの空気が伝われば幸いです。

インドを訪れる場合、宗教についての広く浅い知識が必要です。この国は宗教大国と言われ5つの宗教に大別されます。それは、ヒンドゥー教・イスラム教・バハイ教・シーク教・キリスト教です。もちろん発祥の地として仏教もありますがヒンドゥー教が全人口の83%を占めているのに大して仏教は0.7%ですアロックさんも熱心なヒンドゥー教徒でベジタリアンであり、食前のお祈りや街の礼拝堂でのお祈りは無宗教に近い我々にとって考えさせられるものがありました。生活文化の違いはどここの国にもあることですが、欧米化された日本人にとってインド人のそれは、我々がかかなり理解を示さないとトラブルを起こすと思われます。インドの方々も我々に対してかなりの理解を示して下さいました。このコンフレンスで会ったインドの皆さん、アロックさんとその家族そしてCMSのガンディーさんを始めとする先生方に感謝します。有り難うございました。

来年の派遣事業校、鬼南小児童の第2の故郷ラクナウに思いを馳せて…………。

TSIE 福田泰造・宇野千代

〔インド・ラクナウ開催 I S S E コンフレンス参加会計報告〕

収入

T S I E 補助金 ¥300,000  
自己負担金 ¥117,756 (一人¥58,878)

支出

内訳は下記の通り ¥417,756

支出内訳

	項 目	支出額 :円	摘 要
6/22	<input type="checkbox"/> 日旅サービス	213,000	航空券 95,000×2 =190,000 空港税 3,200×2 = 6,400 査証実費 4,100×2 = 8,200 渡航手続 4,200×2 = 8,400 合計 =213,000
6/28	<input type="checkbox"/> 通訳費	80,000	アロック氏へ日本円にて支払い
6/29	<input type="checkbox"/> Qutab Hotel の支払い	18,900	150 USドルで支払い (朝食付) 二人分
	<input type="checkbox"/> コンフレンス参加料の 支払い	50,400	400 USドルで支払い 二人分
6/30	<input type="checkbox"/> インド国内線航空券	55,456	18,672ルピー (440 USドル) 払 160 USドル×2 =320 USドル 120 USドル×1 =120 USドル 合計=440 USドル
	合 計	417,756	
〔備考〕	換算 (レート)		
	1ルピー	: 2.97 円	
	1 US ドル	: 126 円	

1999. 7. 10.

T S I E 会長

福田泰造





ガンディー、サラ、ブレマ等多くの先生（CMS）の歓迎を受ける。多くのバラの首飾りの為シャツが赤く染まる。



怪しい写真家に数多くの写真を撮られる



ガンディーさんの奥さんはCMSの最高責任者



アメリカの代表と記念写真



記念写真



コンファレンスのスタッフ



ISSFコンファレンス参加各国のショウによる紹介  
と各国代表のスピーチ



コンファレンスのスタッフ



ガンディ、サラ、ブレマ等多くの先生（CMS）の歓迎を受ける。多くのバラの首飾りの為シャツが赤く染まる。



ガンディーさんの奥さんはCMSの最高責任者



怪しい写真家に数多くの写真を取られる



アメリカの代表と記念写真



記念写真



ISSEコンフレンス参加各国のショウによる紹介  
と各国代表のスピーチ



コンファレンスのスタッフ



コンファレンスのスタッフ



ラクナウ観光 総ラ・マルチニエール学校



ラクナウ観光 (大イマームバーラ複合体)